

FACE

VOL.004 2020.7



研修イノベーション

豊見城中央病院の飽くなき挑戦

特集

研修イノベーター

独自の進化を続ける、豊見城中央病院の初期臨床研修

沖縄県内の市中病院で最も多くの研修医が集まる病院の一つであり、日本病院機能評価による研修医教育に関する項目でS評価を取得するなど、近年目覚ましい評価を得ている豊見城中央病院(8月1日より友愛医療センターへ移転・名称変更)の初期臨床研修。そこには現状に強い危機感を抱き、高い使命感をもって革新に取り組む指導医達のドラマがあった。常に未来を見据え、医師の育成を目指して独自の進化を続けるその内容について、いくつかの特徴を紹介する。



24時間、
365日支える。

シヨン

誰のための
研修？

シミュレーションを
徹底的に、ここで。

“24時間、研修医を孤独

確かな診断を支える膨大な内科症例コンテンツ

迷ったとき研修医が常に拠り所とするナレッジクラウドを開発・運営。連日行うフィードバックには初期研修医のみならず多くの医師が集まるなど、研修の現場に寄り添い続ける池原医師に話を聞いた。



豊見城中央病院 総合内科部長

池原 泰彦

水準以上の総合的な診断力を 初期研修医全員に習得させる。

幅広い症例を正確に診断できる総合診療のマインドを持つ医師を育てたい、と私は考えます。救急や一般内科外来における実践的な学びを通し、初期2年間の基礎力をつけることは非常に重要です。この総合診療のマインドと基礎力は、将来どんな科に進むことになったとしても、決して無駄になることはなく役立つことを確信します。

研修医時代、私は落ちこぼれでした(笑)。やる気は空回りするばかり。なぜ空回りばかりだったかを思い出すと、学び方に問題があったと思うのです。もっと正確に言えば、学び方さえわからなかった。当時の病院は膨大な症例を体験して学ぶスタイルで、懇切丁寧に教えてもらえるような雰囲気ではありませんでした。大部分の研修医は私のように学び方すらわから

ず、それが苦しみと空回りにつながりました。私は、落ちこぼれを作らない、全ての研修医が医師として重要なことを効率的に学べるような仕組みを作りたい、と考えます。もちろん厳しい環境でも非常に優秀な一部の人々は伸びていきます。出来る2割は放っておいてもどんどん成長する。でも辛い思いをしているかもしれない8割もしっかり底上げして、研修医全員に一定水準以上の総合的な診断力を2年間で習得してもらう。これが私の目指す初期研修教育なのです。

23,000以上の症例を分析、 診断シミュレーションとしてコンテンツ化。

優秀な研修医でも、自らが経験していない症例はまず診断しきれない。そんな状況に彼らを陥らせないため、Eラーニングの仕組みを活用して、様々な症例をいつでも学習できる実践的なコンテンツを作成しました。

にしない”



まず、内科医として私が経験した23,000件ほどの症例を分析し、症例の典型的な症状や時間経過などの特徴を、パターン化してわかりやすく整理しました。一般的な総合内科というのは、様々な情報を集めたのちに診断を進めます。しかし、私はいかに早く、正確な診断に到達するかが重要と信じます。そのためには、私が分析した患者さんのイメージを研修医に覚えてもらい、ある程度の仮説を立て、重要な問診から行うことができるようになってもらいます。このプロセスにより、診断へのスピードと正確性が格段に向上します。

さらに、私の過去の症例と毎日数十に上る研修医のカルテの中から、診断学の観点で重要と思われるものを選びました。一次情報からの診断、処置、その後どのような結果になったか、実臨床に沿って時系列で整理したコンテンツを作成しました。いわば診断の疑似体験、シミュレーションですね。研修医は、他の医師が診た症例を、あたかも自分が体験したかのように学習することができるわけです。研修医は臨床で「あ、こんな情報があったな」と思い出して、すぐにEラーニングのコンテンツを確認しながら診療できる。コンテンツ数はこの1年間で260例を超え、今も日々更新しているところです。

時間と空間からの解放。 研修医はもちろん、上級医にも役立ちたい。

Eラーニングの良い点は、いつでも、どこでも、何度でも学習できることです。その場になかったから学習できなかった、とい

うことがありません。また、疑問を対面で聞きづらいという性格の人も、Eラーニングはそんな制約からも解放してくれます。この特性は思わぬ効果もあり、実は多くの上級医にも閲覧していただいています。指導する側の医師は、わからない事を人に聞きづらい、専門以外のことはどう勉強するかわからないという事もあると思いますが、Eラーニングは誰でも気兼ねなく見て勉強できるわけです。

インプット・アウトプット・フィードバックを反復

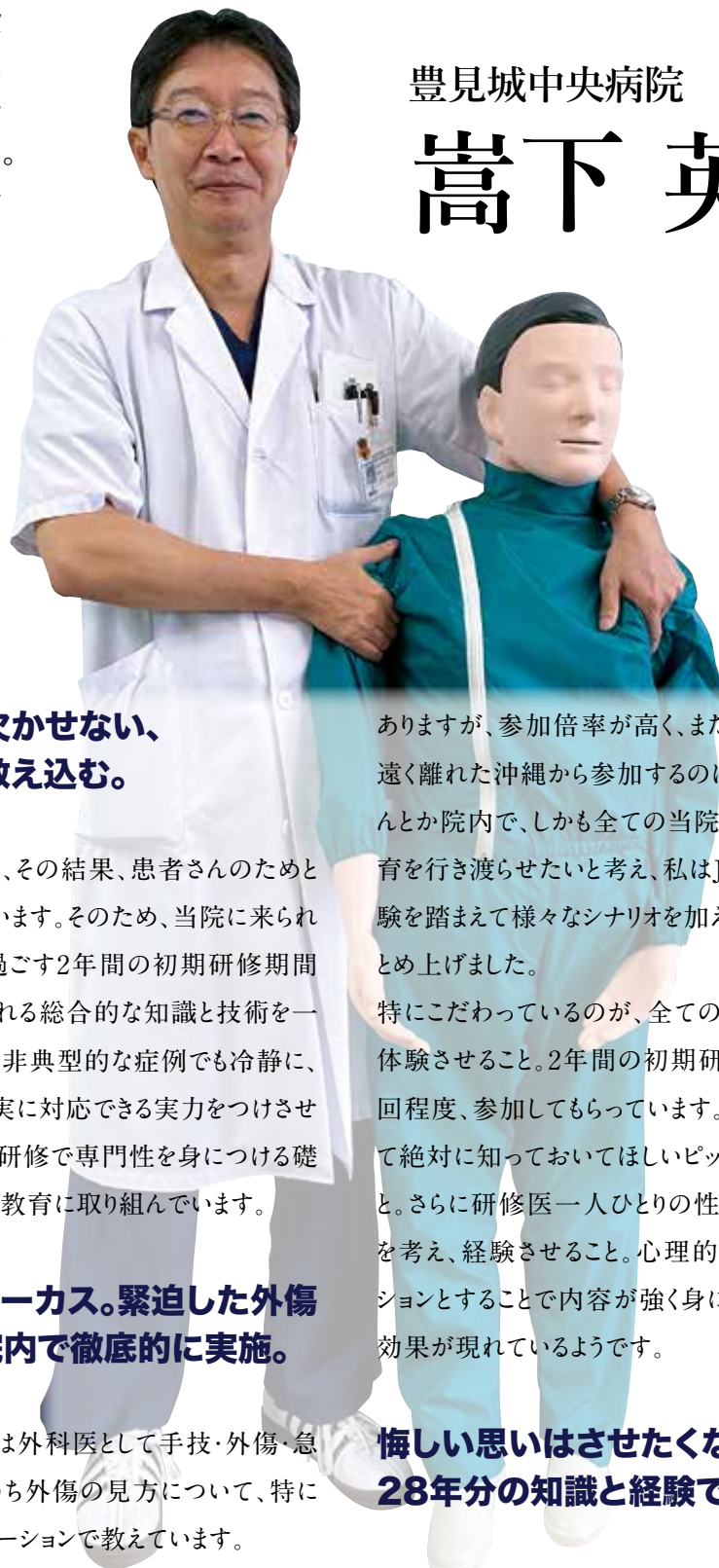
Eラーニングに加えて私はフィードバックも重要視し、丁寧にやっています。どれだけ症例をこなしても、正解がわからないままで立ち止まっていたのでは意味がない。間違いを繰り返すだけです。研修医が診た全てのカルテを日々その日のうちに確認し、時系列で一緒に考える。Eラーニングのコンテンツ構成と同じ考え方でフィードバックされるわけです。つまり、研修医は事前にEラーニングでインプットする、必要なら何度でも。それを臨床でアウトプットする。さらにしっかりフィードバックを受ける。この反復学習は非常に有用です。2年間これを繰り返すことで総合的な診断力が確実に身につくわけです。

今後は、コンテンツの質・量ともにさらに充実させ、当院の研修医には私が25年かけて習得した診断学を2年で習得してもらいたいと考えています。(談)

“研修医を決してピット

強い願いが進化させる外傷シミュレーション

多くの指導医と充実した設備を活かし、JATECをベースとして独自のシミュレーション実施を可能にした嵩下医師。TOMITECと名付けたそのシステムの特徴と教育効果、そして機能を大幅に増強する新病院で期待される進化について聞いた。



豊見城中央病院 外科救急科部長

嵩下 英次郎

医師としての実力に欠かせない、 ジェネラルな基礎を教え込む。

研修とは研修医のためにあり、その結果、患者さんのためとなるべきである、と私は考えています。そのため、当院に来られる全ての研修医が、当院で過ごす2年間の初期研修期間中に医師として臨床に求められる総合的な知識と技術を一定の水準以上に高め、加えて非典型的な症例でも冷静に、ピットフォールに陥ることなく確実に対応できる実力をつけさせたい。そしてその後が続く後期研修で専門性を身につける礎にしてもらいたい、そんな思いで教育に取り組んでいます。

ピットフォールにフォーカス。緊迫した外傷 シミュレーションを院内で徹底的に実施。

当院の初期研修において私は外科医として手技・外傷・急性腹症を担当しており、そのうち外傷の見方について、特にピットフォールを中心にシミュレーションで教えています。

外傷シミュレーションではJATECという大変優れた研修が

ありますが、参加倍率が高く、また費用もかかります。ましてや遠く離れた沖縄から参加するのは非常にハードルが高い。なんとか院内で、しかも全ての当院研修医にこの素晴らしい教育を行き渡らせたいと考え、私はJATECをベースに自らの経験を踏まえて様々なシナリオを加えた当院独自の研修としてまとめ上げました。

特にこだわっているのが、全ての研修医に等しく、徹底的に体験させること。2年間の初期研修医期間のうち合計5～6回程度、参加してもらっています。そして実施内容は医師として絶対に知っておいてほしいピットフォールにフォーカスすること。さらに研修医一人ひとりの性格や状況に合ったシナリオを考え、経験させること。心理的に緊迫度の高いシミュレーションとすることで内容が強く身につくなど、非常に高い教育効果が現れているようです。

悔しい思いはさせたくない。 28年分の知識と経験で支える。

私自身の研修医時代を振り返りますと、非常に多くの症例に

“フォールに陥らせない”

触れることができ大変有意義だったのですが、非典型的な症例に遭遇してしまった際には、悔しい思いをした事もあります。当院の研修医も救急で多くの症例に触れることができますが、あの時これを知っていたら、身につけていたらという思いは、私が教える彼らには決してさせたくない。彼らが臨床の現場でピットフォールに陥ってしまう前に、外科医としての私の28年の経験を通じて特に重要と考える事例についてはシミュレーションによって実用的に、確実に身につけてもらいたいのです。

研修医に寄り添い、一人ひとりの個性に合わせた効果的なシナリオを作る。

私は研修医と同じ医局に席を置くようにしています。常に彼らの近くにおいて、毎日顔を合わせてコミュニケーションできる環境です。彼らの性格を知り、彼らが今どんな状況にあるか理解すること、そしてなにかあれば互いに気がねなく声をかけ合えるような雰囲気づくりを心がけています。これは研修医のための研修を実践するにはとても重要なことだと私は思っていて、シミュレーションに関して言えば一人ひとりに合わせた心理的に緊迫度の高い効果的なシナリオを考える際に大変役立っています。さらに授業を終えるたび、彼らの役に立つ内容だったか、必要なテーマだったか、彼らの反応を見ながら毎回振り返って改善につなげています。また、研修医とともに過ごすことで、私は彼らから新鮮なモチベーションやエネルギーを日々いただいています。彼らと私は教える側・教えられる側という関係にはありますが、相互に与え合

うような有り難い存在です。そして駆け出しの彼らが一人前の医師として成長していく過程を間近で見させてもらうことは、私自身の大きなやりがいにもつながっています。

大幅に機能拡張される新病院施設で、さらなる進化を目指す。

ハードに関して言えば創立40周年を迎える今年、当院は新病院に移転(友愛医療センターに名称も変更)しますが、これを機に幾つかの設備が増強されます。中でも救急に関してはヘリポートが設置されるなど大幅な機能拡張があり、さらにアメリカから帰国されたばかりの山内素直先生が担当医に加わります(2020年4月着任)。山内先生はかつて浦添総合病院(沖縄県浦添市)で独自のシミュレーション研修(名称「SPAM」)を開発されたご経験もおありです。当院の外傷シミュレーション教育を質・量ともに今後ますます充実させ、研修医のための研修、ひいては患者さんのための研修としてさらなる進化を遂げることを約束します。(談)



指導医 対談

医療への思 終わらない

多くの指導医が多忙な診療の傍らで暇を問わず、それぞれが常にその革新と進化に取り組む豊見城中央病院の初期研修教育。彼らを駆り立てる思いとは一体何なのか。活動の中核を担う2医師に、教育課程責任者である嘉数医師が加わり語り合った。

” 研修医のための
研修について
考え続けています “



嘉数 真教
KAKAZU Masanori

豊見城中央病院
循環器内科部長
研修管理委員長
自治医科大学出身

いが駆けり立てる、 イノベーション。

嵩下 英次郎

DAKESHITA Eijirou

豊見城中央病院
外科救急科部長
産業医科大学出身

池原 泰彦

IKEHARA Yasuhiko

豊見城中央病院
総合内科部長
聖マリアンナ医科大学出身

研修医のための研修。それこそが患者さんのため。だから、実践的な教育にこだわり続ける。

嘉数 実は私達3人も、30年近く前に同じ病院で研修しています。

池原 研修当時の私は落ちこぼれで、学びたいという気持ちはすごくあったのですがどうしたら良いかわからず、毎日臨床の現場で空回りしていました。非常に苦しかったですね。

嘉数 当時の研修医は皆そうじゃないでしょうか。私も自分が一番落ちこぼれだと思ったし、周りがとても優秀に見えたので「もっとやらないと」といつも焦っていました。

高下 私も勉強する時間が殆どないほど多くの症例を診て、とにかく多忙を極めた2年間でした。唯一沖縄らしい思い出といえば、ナイト明けでそのまま海に行きビーチで寝て、時間になったら起きて病院に向かった、それだけ。普段はそんな時間もなくて、沖縄に来たのに肌はずっと真っ白でした(笑)。

嘉数 その病院では2週間連続の休みがあったのですが、1年間で休みはその2週間だけ。だからこの2週間で何をしようかと一生懸命考えたことを覚えています。

高下 当時と比べるとなく、当院の研修は臨床、勉強、プライベートのバランスが非常に良く取れていると思います。メリハリ研修とでも言いましょうか。ワークライフバランスについて我々が非常に重きを置き、取り組んでいる結果です。

高下 バランスを良くするためには、教育内容が重要です。私は臨床で役立つことを中心に、特にこれだけは絶対に覚えてほしいということはさらに徹底して教えています。



池原 当院の研修は非常に実践的ですね。私も含め指導医は皆、研修医の臨床での充実した経験と、そこから得られる彼らの自信を一番に考えています。そのために、実践的な内容をどのように効率的に学んでもらえるかという点に知恵を絞っています。私はEラーニングで学べるコンテンツを開発しました。

嘉数 実は、池原先生のコンテンツは私も見て勉強しています(笑)。いつでもどこでも見られることに加えて、なにより非常に実践的な内容になっているので、とても役に立っています。

池原 本当ですか(笑)ありがとうございます。実は当初から研修医だけではなく上級医・指導医が見てくださる事も想定して作成しています。学習に対するニーズを医師は皆持っていると思っていたので。

池原 嘉数先生におっしゃっていただいたように、私のコンテンツが誰かの役に立っていると実感できた時、とてもやりがいを感じます。研修医が臨床の現場で診断できた、と大喜びで報告して来た時など、最高の瞬間ですね。

高下 ある研修医が当院から内地に巣立って数年後、彼の赴任先の病院で私が教えた症例が出て、十分な設備も無い状態だったにも関わらず確かな診断ができた、と喜びの報告がありました。上腸間膜動脈が塞栓する非常に難しい症例で、私はこれまで何度も厳しい体験をしていたので、これは絶対に見逃すなと教えていまして。嬉しかったですね。その話を聞いた学生さんが当院で研修したいと言って入ってきたときは、さらに嬉しかったです。

嘉数 研修医の成長は嬉しいですね。当院の卒業生が各地で活躍している、そんな話が聞こえてくると心の底から「やった!」と思います。私達が大切に育てた先生方には当院に残ってご活躍いただくのがもちろん一番嬉しいことですが、彼らが国内外の病院に羽ばたいていき、各地の医療に貢献していることも非常に誇らしいです。

高下 個人的には、今後そういった院外で活躍しているアルumnai(OB/OG)との関係を強化できたらいいなと考えてい



ます。そして教育も含め、当院に様々な形で関わっていただきたい。研修医はもちろん我々も、他の病院のやり方、考え方に触れることで医療の可能性は大きく広がると思います。

池原 Teaching is Learningとはよく言いますが、自分の知識や経験を言語化、データ化する作業を通じて、私にとってもこの一年はとても実りがありました。

嘉数 教えるには勉強し、時間をかけて準備しなければなら

しょうか。

池原 私は今後さらにEラーニングコンテンツの質と量を充実させます。

高下 当院は今年、新病院に移転することで様々な機能が強化されますが、中でも私は救急に注目しています。救急室が大幅に広くなり、ヘリポートもできる。今まで以上にいろいろな研修ができるようになるでしょう。

嘉数 新病院ではアメリカから帰国して当院の救急に着任された山内素直先生にも研修に参加していただこうと考えています。彼は大変教育熱心ですし、海外を含めた救急でのご経験も非常に豊富。研修医を含む救急医療の現場では、すでに変化が起こり始めています。

高下 現場の雰囲気も大きく変わってきましたね。つい先日も難しい患者さんの救急搬送があり駆けつけたのですが、5分で完璧な準備ができていて感銘を受けました。

嘉数 移転を経て当院は研修医にとっても良い方向へとさらに変わっていくことでしょう。私達指導医にとっても同様で、へ

“もう一度研修するなら、 私は当院を選びます(笑)”

ない。私は後進の育成を医師の仕事の大切な一部という自負を持って取り組んでいます。それに人を育てることは楽しいですね。

高下 楽しいですね。私はこれを好きでやっています(笑)。好きじゃなければここまで時間と労力を割けない。彼らの成長を見るのが楽しいですし、私も彼らから元気を貰っています。いつしか私のライフワークのようになってしまいました。

池原 ここへ来て本当に良かった、と研修医には言ってもらいたいと思います。もしもう一度研修医になれるなら、私は絶対に当院を選びます。

嘉数 私も当院に来たい(笑)。ここの研修は内容も充実しているし、なにより楽しい。

高下 私も当院で学びたいです(笑)。重要なことを効率的に学び、自習の時間もある。臨床ではしっかりサポートを受けながらある程度は任せてもらえるから、やりがいがあると思います。ワークライフバランスにも大変配慮しているので、様々な観点から充実した研修生活を送ることができるのではないで

りポートやハイブリッドORが設置される、手術室や救急室、心カテ室が強化され、各種診断機器も新しくなり、当院でできることが大幅に増えます。これはとても大きなインパクトで、最先端の医療を追求し続けるためにより恵まれた環境となります。医師として非常に楽しみです。研修医教育内容に関しても、今後も研修医からフィードバックを受けながら自己評価・改善を行い、指導医の自己満足に陥ることなく、さらなる進化を目指します。(了)



専攻医 座談会

ここで、研修医と

初期臨床研修を豊見城中央病院で受けるとはどういうことか。豊見城で2年間を過ごした専攻医と他病院を経験した専攻医に、豊見城中央病院の研修について自由に話してもらった。

大城 学生の間では、沖縄は初期研修が充実しているというイメージがあります。

小禄 沖縄では初期研修医も救急をやらせてもらえて、第一線で活躍しています。症例をいろいろ診る事ができますね。

知花 私は専攻医の病院見学でこちらの消化器内科に来たのですが、その際に先生やスタッフの方がとても熱心で丁寧に教えてくださった事を覚えています。症例が多いのももちろんですが、非常に働きやすそうだと思います。こちらの病院に即決しました。

小禄 私が過ごした3年前と比べても働きやすく、さらに良い雰囲気になっているように感じます。また一緒に戦う同期が12~13人と多いのも良いですね。いろいろ相談できたり、楽しく飲みにも行ける仲間との絆は大きな財産です。

知花 私が初期研修を受けた病院も12人ほどいて、多すぎず少なすぎず、勉強や息抜きなど何をするにもちょうど良い人数でした。全体の結束も強かったですね。

大城 しかし研修医だけで固まっている訳では決してなくて、当院は指導医の先生、看護師さん、コメディカルの皆さんがチーム一丸となって支えてくださるので、研修医としては非常に心強かったです。助けられました。

知花 研修医にとって気軽に相談できる雰囲気はとても大切です。その点、こちらは非常に相談しやすい。先生方とは席も近くて声をかけやすいです。

小禄 病院全体で見ても垣根が低いですよ。医局で隣に座ったついでに、診療科関係なく誰にでも相談できます。

知花 自分の担当する患者についてカンファレンスで様々なアドバイスを頂いて治療方針を決めることができ、独りじゃないという安心感があります。

小禄 研修医がきちんと任せてもらえて、全員で診療方針を議論



して、生きるということ。

最高の環境でひたすら学ぶ、
何ものにも代えがたい日々。

“病院全体がチームとなって育ててくれた”



して決められるのはこちらの良い点ですね。ドクターが多く体制が充実しているからこそできるのかもしれませんが。

知花 こちらに来て初めて当直に入った時、カルテや動き方などの決め事がわからず自己嫌悪に陥ってしまったのですが、指導医の先生に掛けていただいた言葉が大変温かく、感動しました。こちらでは知識や技術を教えるだけではなく心にも寄り添ってくれる。医療人をきちんと育てたいという雰囲気が根付いているのでしょうか。

大城 初期研修では池原先生が行ってくださる当直明けのフィードバックが大変な人気です。ここまで充実した内容はなかなか無いのではないのでしょうか。上級医の方も聞きに来ています。

小禄 間違いありません。私達の時代にもとても熱心に教えてくださいました。

大城 池原先生は聞けばなんでも教えてくださいましたので、困ったときにはすぐに相談してしまいます。また、先生が作っていらっしゃるEラーニング教材には、当直の時にとても助けられました。内容は実用的で簡潔にまとめられ、主訴別に整理されているなど、非常に効率的です。今も、相談するほどでもないけれど、これってどうだったかな?という時に見て参考にしながら診断しています。これは凄いです。

知花 Eラーニングは他の病院でも活用されていると思いますが、これほど実践的な内容がこのボリュームで展開されているのを聞いた事がないですね。

小禄 3年前、当時は私達が当直で見た症例で気になった事をメモにして池原先生の“質問BOX”に入れて置くと、池

原先生から電話がかかって来たり関連する文献がデスクにドンっと置いてあったり。そんな先生だからこそ作り出せたのでしょうね。

小禄 実践的といえば、嵩下先生の外科シミュレーションも凄い。先生と私は5年前に入職したいわば同期なのですが(笑)、着任されてすぐにその開発に取り掛かれていました。内容は当時から非常に実践的でしたが、いまま進化し続けているようですね。

大城 ピットフォールについて効率的に学べるようシナリオがとても熟慮されていますし、2年目では指導医と一緒に教える側になり、教え、質問に答える事で内容が強く身につきました。外科で最低限必要なことは手際よく、ルーチンで動けるようになるまで鍛えてくれます。

小禄 プライベートでも研修医との距離が特に近いのも嵩下先生の特徴ですね。私も先生に誘われて大喜びでロード自転車を買い、北部の古宇利島あたりまで一緒に行ったりしました。



知花 一般的な初期研修では当直も内科しか診られない事もありますが、こちらは外科も同様に診る事ができますね。また、こちらの当直は多人数で、さらに指導医の先生の手厚いサポートが常時ある。そのようにしっかり育てられているせいか、この初期研修医は非常に動きが良いですね。

小禄 私の当直でも初期研修医と一緒にして、確かにとても優秀で助かっています。

大城 当直では多くの症例を診て、指導医のサポートを得



大城 俊貴

専攻医1年目
内科
東北大学出身

て診断方法が身につき、とても力になったと思います。それに3勤制で一晩中の勤務はありませんし、当直明けは「帰ってね」と皆が言ってくれてきちんと帰宅できるので、それほど負担とは感じませんでした。

小禄 ワークライフバランスが非常に良く取れていますよね。

知花 一人での当直は心身ともに消耗が激しいものですが、こちらの診療体制なら非常に勉強になるし、肉体的な負担も少ない。当直の数が多くても個人的には良いと思います(笑)。

小禄 3年目になった時に初期の2年間で勉強してきた成果が出ると思います。私は豊見城で多くの経験をしたから、大抵のことは大丈夫だろうと自信を持って取り組む事ができました。日々の丁寧なフィードバックやシミュレーションなどの実習がとても役に立ったと思います。

大城 私も当院に来てよかったです。教育面でも症例の数も労務的な面でも、全てにおいてバランスが良く充実しています。

知花 初期研修医が非常にしっかりしているのを見ると、きつととても良い内容なのだろうと思います。これからが楽しみです。

小禄 私はこちらの初期で手厚く教えていただきましたので、後輩にも同じように教える事で恩返ししたいと考えているのですが、実際に教える側になると手間と時間が非常にかかります。当時の指導医の方々もこのように労力を割いて教えてくださっていたのだらうと、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

知花 忙しいと周りが見えなくなりがちですが、こちらの先生は疲れていてもコンサルトに丁寧に答えてくださいます。私もあんなふうに気持ちに余裕を持って、いつどんな時でもきちんと接することができるような医師になりたいと思いました。

大城 私は、どのような患者さんが来ても対処できるような幅の広さと専門医としての高度な専門性を持った医師になりたいですね。こちらならそれが可能です。また、私は4月頃にCOVID-19診療チームに加わりまして、感染不安から来院される方が非常に多く負荷が高かったのですが、患者さんのそのような不安な気持ちにも寄り添えるようにならないといけないと、それも医師の仕事だと強く思うようになりました。

小禄 当院のCOVID-19診療チームに3年目の先生が1名加わっていたのが象徴的ですね。研修医のための研修という当院の考え方を表していると思います。今年は新病院に移転して救急室が広くなり、研修医の活躍の場がますます広がりますね。

知花 医局も当直室も新しくなりますし、楽しみです。

大城 新病院でも研修医から部長まで、そしてすべての診療科の先生がひとつの医局に机を並べるようですね。研修医専用の控室も新設されるようですが、今までのように院内の誰もがフラットに、気軽に話せる雰囲気は受け継がれていくことになるとと思います。楽しみです。(了)

“この当直ならもっとやりたいです(笑)”

編集後記

研修医のための研修であり、それこそが患者さんのためにつながる。院内に広く浸透する強い信念が多くの医師を教育内容の改善に駆り立て、豊見城の研修を進化させ続けている。指導医・研修医・コメディカル・事務職員といった初期研修に関わる全ての人間が同じ思いを異口同音に語る様子が、その真実を物語っていると感じた。(広報誌編集委員・和田)



社会医療法人 友愛会

〒901-0243 沖縄県豊見城市字上田25番地
TEL098-850-3811 FAX098-850-3810
発行人／比嘉 國郎
編集／広報誌編集委員会
印刷／株式会社 東洋企画印刷



豊見城中央病院HP



臨床研修医HP